

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	猪股 久美子	福祉	H2301111
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	下北沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	156-0041		
	所在地	世田谷区大原1丁目4番6号		
	TEL	03-3468-3127		
事業所代表者氏名	事務局長 中島 栄二			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 22 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 10 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 22 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 1 日			
評価合議日	2025 年 10 月 1 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)明るく楽しく元気に生活できる下北沢小新BOP 2)安心して安全に遊び生活できる下北沢小新BOP 3)人との関わりを大切に、豊かに成長できる下北沢小新BOP 4)遊びや諸活動を通して、主体性・社会性・創造性を養い、自ら行動する子の育成 5)新BOPでの生活を通して、よき自分・生き方作りの基礎を培う</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・放課後や一日育成において児童の居場所を確保し、児童が楽しく安全に過ごせるような声かけや関わりができる資質・能力をもっていること・組織の一員として他の職員と報告・連絡・相談が的確にでき、新BOPの目標に向けて行動し職責を果たせる人材を求めている <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>一人ひとりの子が、新BOPでの時間をより楽しく、充足感をもって過ごしたいと願って過ごしていることへ思いをさせ、特に目立たない子やあるいは、ルールを守れない子へのかかわりを精力的に行い、少しでもよりよく行動できる子を育てていくこと</p>

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 198

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	198	0	198
共通評価項目による調査の有効回答者数	61	0	61
利用者総数に対する回答者割合(%)	30.8	0.0	30.8

利用者調査全体のコメント

調査対象者198名のうち、61名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、58名が「大変満足、満足」、2名が「どちらともいえない」、1名が「不満、大変不満」と回答している。また、「学童クラブは楽しい」「おやつを量を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	55	3	1	2
55名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「めんこやゲームが楽しい」「体育館や校庭で遊べて楽しい」「イベントが楽しみ」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	48	8	0	5
48名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答している。また、「みんな優しい」「友達に相談している」「相談したいことはない」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	50	4	4	3

50名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。また、「とてもおいしい」「毎日おやつが違って嬉しい」「おやつが少ない」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	28	6	1	26
28名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「話し合いは参加しないで遊んでる」「話し合いに参加したことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	46	6	1	8
46名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。ルールが適切に伝えられている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	7	2	2
50名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「使ったものを元の場所に戻されていないことがある」とのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	51	5	1	4
51名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。職員の接遇や態度が適切に保たれている様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	54	1	2	4
54名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「助けてくれる」「ケガをした時に気づいてもらえなかった」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	52	0	1	8
52名が「はい」、1名が「いいえ」と回答している。また、「ケンカになると先生が助けてくれる」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	51	3	0	7
51名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。子ども主体の対応が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	36	2	0	23
36名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「秘密にしたいことはない」「秘密は話したことない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	47	4	0	10
47名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「嫌なことがあった時に先生に気づいてもらえて嬉しかった」「そういう話はしたことがない」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	5	5	34
17名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」、34名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	職員としての姿勢を明確にし、共通認識の下で事業運営が行われている 区の「7つの目標」を現場で実践的に展開するため、「チーム下北沢小新BOP」の職員方針を策定している。職員が大切にしたい姿勢を明文化し、年度初めに共有することで、日々の運営や対応の指針として活用している。「聞く耳を持ち自分の考えを述べる」「固執しない」など、柔軟な姿勢を重んじる内容となっている。方針は掲示等により可視化され、学期ごとに見直しを行うことで意識の継続を図っている。迅速な対応や丁寧な連携を重視し、地域と協働しながら子どもにとって安心できる環境づくりを進めている。	
	区の方針に基づき、子どもの成長に向けた大切なことを周知している 子どもたちには、「7つの方針」に基づき、明るく元気に過ごし、人との関わりの中で成長することの大切さを日々伝えている。年度初めには全体で集まり、互いを思いやる姿勢や安全に過ごすための約束を共有している。挨拶や整理整頓など基本的な生活習慣についても、日常の中で自然に身につけられるよう働きかけている。また、保護者には夏休み後などに成長の様子を伝えるお便りを届け、安心感と信頼関係の構築に努めている。学童クラブを「遊び場」だけでなく、子どもの社会的成長を支える場として位置づけ、家庭と連携した支援を推進している。	
	異なる課が連携を密にして、事業運営を効率的に行う仕組みが整っている 区の方針を年間計画に反映するにあたり、地域学校連携課と児童課の連携体制が確立しており、職員への情報共有も児童館長会を通じて円滑に行われている。事務局長は、活力ある組織づくりのために職員一人ひとりの力量向上を重視しており、特に会計年度職員に対しては丁寧な助言を行いながら、子どもとの関わり方や新しい遊びの工夫を促している。こうした取り組みを通じて、各職員が自主的に考え行動できる環境づくりが進められ、学期ごとに新たな工夫が生まれるなど、現場全体の活性化につながっている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>学校の協力と理解を得て、区の定める「三つの間」の実現を効果的に行っている</p> <p>学校の協力により会議室が年間を通して貸与されており、安定した運営環境が確保されている。行事期間中に体育館や校庭が使用できない際は、多目的室を活用して映画会などを実施している。放課後の個人面談も少人数教室を借りて実施し、学校側の理解と協力を得て運営している。大雨時の受け入れや送迎支援など、学校との協働により安全な環境づくりが進められている。また、地域との関係にも配慮し、ピロティーを活用した遊びの場づくりなどを工夫している。空間・時間・仲間の三要素を効果的に活かし、子どもが安心して過ごせる運営体制を整えている。</p> <p>子どもが楽しく成長できる居場所として、人間関係を大切に環境づくりをしている</p> <p>学校生活とは異なる人間関係の中で子どもが安心して新しいつながりを築けるよう、職員は一人ひとりの様子に目を配り、自然な集団参加を促している。保護者には個別面談や会報を通じて、子どもの成長や頑張りを前向きに共有し、家庭と連携した支援を進めている。日常生活習慣や言葉遣いなども、挨拶や思いやりを大切にする指導方針のもと丁寧伝えていく。また、地域の特性を踏まえた運営により、子どもが自らの居場所とし捉えられるよう取り組んでいる。子どもたちが互いを認め合い、安心して過ごせる場づくりが着実に進められている。</p> <p>すべての職員が事業運営の検討・改善に向けた話し合いができるよう、環境を整えている</p>		

年度の課題について、現場では職員ミーティングを通じて課題を吸い上げ、内部で検討・改善を行う体制が整っている。クラブでは、職員の意見をもとに協議し、改善策を実践する取り組みを継続している。12月から1月にかけてロングミーティングを行い、年度途中の成果を確認している。年度末には年度末反省会を実施し、職員や子ども・保護者のアンケート結果等の集約を分析して、次年度の運営方針に反映させるなど、事業運営全体の改善サイクルが確立している。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリー3の講評

職員全員が共通の視点で子どもに寄り添い、状況に応じた柔軟な支援を行っている

子どもの権利擁護を最優先とし、職員に対して「聞く耳を持つ」「子どもにとって価値のある関わりを考える」といった姿勢を日常的に共有している。指導は単なる注意ではなく、遊びを通して喜びを共にし、信頼関係を築くことを重視している。職員ミーティングでは具体的な事例をもとに意見を交わし、支援方針の共通理解を深めている。連携面では、学校・児童相談所・祖父母など関係機関と協力し、子どもの安全と安心を最優先とした支援体制を構築している。

迅速かつ適切に苦情や要望に対応する仕組みが整えられている

苦情や要望への対応には柔軟かつ丁寧に行う方針としている。苦情が寄せられた際は、まず児童指導員や事務局長が保護者の声を直接伺い、内容に応じた最適な対応を検討する。対応後は児童館長へ報告する仕組みがあり、現場と管理の連携が円滑に機能している。保護者からの意見は、より良い運営のための貴重な情報として前向きに活かされており、弁当提供に関しても安全面に配慮しながら改善を重ねている。こうした一つひとつの対応を通じて、子どもと保護者双方に安心と信頼をもたらす運営体制が築かれている。

今後の利用児童数を予測し、具体的な対策の必要性を感じている

地域では区の子どもの数が減少傾向にある中でも、大きな街として安定した児童数を維持している。現場では200人規模での運営が続いており、今後は新BOP運営の適正人数である120人に近づけるための環境整備が課題である。具体的には、近隣小学校跡地にある空き教室・体育館の活用や、民設民営放課後児童クラブの整備が検討されている。人数の増加に伴い、子どもの意見を丁寧に反映するための時間・空間の確保が重要であり、トラブル対応時には静かな場所を選び、落ち着いた環境で対話を行うなど、子どもの気持ちを尊重した支援を目指している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>地域との連携を重視した防災対策を役割意識をもって参画している</p> <p>地域では、学校と地域が協働し、防災意識の向上と安全体制の強化に努めている。災害時には避難物資を学校と共有し、相互に支援できる仕組みが整えられている。この協働を通じて、地域と学校の信頼関係を深めている。地域には長く住む世帯も多く、今後より持続的なつながりが形成していく意向である。実際に「遊び場開放」などの地域活動では、学校関係者と地域住民が連携して運営にあたり、互いに支え合う関係が根付いている。開校10周年記念イベントでも、職員や地域住民が協働し、地域全体で子どもを支える体制づくりが進められている。</p> <p>子どもの安全を第一に、多角的かつ多様な関係者の協力を得て安全確保を行っている</p> <p>子どもの安全を最優先課題として位置づけ、限られた人員の中でも安心できる体制づくりに努めている。日々の見守りに加え、警備員の巡回や地域の不審者情報ネットワークの活用、緊急時に警察へ直通する通報システムの設置など、多面的な防犯対策を実施している。また、地震などの災害時に備え、学校と連携した避難訓練を毎年行い、全児童が共に避難行動を確認する機会を設けている。こうした取り組みを通じて、職員・学校・地域が協働しながら、子どもたちが安全で安心して過ごせる放課後環境の維持に取り組んでいる。</p> <p>個人情報保護を区の職員として意識付けを行い、漏洩防止に努めている</p> <p>業務では、ICTツールを活用した情報共有が円滑に行われており、子どもの連絡網には全国的に信頼性の高いシステムを採用し、安全かつ確実な連絡体制が整っている。一方で、今後は情報管理の強化を見据え、職員一人ひとりの意識向上を重視している。公的な場での情報取扱いに細心の注意を払い、区職員としての守秘義務を徹底するなど、組織的なリスク管理が進められている。指導員は地域との関わりを大切にしながらも、個人情報保護の観点も踏まえ、信頼される対応を心がけている。これらの取り組みを通じ、安全と信頼を両立する運営を実現している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリー5の講評

より質の高い学童クラブ運営に向けた人材育成を進めている

経験豊富な職員が多く在籍し、安定した支援体制を維持している一方で、要配慮児への個別支援やマンツーマン対応の増加により、より柔軟な人員運用が求められている。こうした状況に対応するため、非常勤職員を含めた全職員を対象に、障害理解を深める研修を実施し、現場全体の支援力向上を図っている。また、若手職員の育成と中堅層の強化を重点課題とし、ベテラン職員の知識や経験を体系的に継承する仕組みづくりを進めている。今後も人材育成と専門性の向上を軸に、子ども一人ひとりに寄り添う質の高い学童クラブ運営を目指している。

さらなる専門性を持った子どもの対応に向けて、職員の学びを広げる意向である

現場では、要配慮児への理解と支援力の向上に向けた研修が求められている。特に、知的・発達障害に応じた支援方法を学ぶことを目的に、見え方・聞こえ方への理解や、伝え方・関わり方を具体的に習得する内容となっている。所内では毎週火・木曜日に拡大ミーティングを実施し、事例検討を通じて支援方法を共有・更新している。これにより、感情表出の強い子どもへの対応など、現場の知見を即時に活かす体制を整えている。今後は、こうした日常的な学びを体系化し、研修機能として位置づけ、より実践的で継続的な支援力向上を目指している。

職員全体で課題解決に取り組む体制が整い、運営の質の向上が着実に進められている

従来は指導員のみでの毎日の打ち合わせであったが、今年度からは週2回、他の非常勤職員を含めた拡大ミーティングを実施している。勤務形態の異なる職員が一堂に会することで、多様な意見が集約され、情報共有や共通理解が深まっている。この取り組みは年間反省から生まれた成果であり、より協働的な運営体制の定着につながっている。また、子どもの生活習慣や安全面に関する課題にも、職員間の連携を通じて改善策を検討しており、物理的な制約にも柔軟に対応する姿勢で臨んでいる。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子どもたちの日常の過ごし方を可視化し、検証できる体制をつくり、安全・安心な居場所を構築する。

【取り組み】

登録児童全員の記録を作成し、定期的な報告会の中で情報共有と対応に向けた検討を行った。

【取り組みの結果】

一人ひとりの子どもの特性や課題をみいだすことができ、またそのかかわり方について深く検討することができた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「個にかかわりつつ集団を見、集団にかかわりつつ個を見る」という姿勢を重視し、全ての子どもの成長を丁寧に記録している。学期ごとに情報共有ミーティングを実施し、職員間で得られた気づきを個別記録として反映する仕組みを整えている。この取り組みは、福祉や保育の知見を取り入れた学童独自の実践であり、将来的には個別支援計画の基礎資料として活用される予定である。子どもの特性や成長に応じた支援目標を設定し、日常の関わりを通じて具体的なサポートにつなげている。今後は、記録をもとにした支援計画を正式に導入し、より継続的で個に寄り添う支援体制の充実を目指している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

配慮を要する児童への見守り体制を確立し、誰もが安全に過ごせる居場所とする。

【取り組み】

一人では関係性を構築できない子どもに職員を配置し、コミュニケーション支援と周囲への理解を促す育成を行った。

【取り組みの結果】

本人の障害特性に応じた生活面での掲示など、わかりやすく伝えることで、本人の迷いが減少し、大きなトラブルに発展することがなくなった。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

要配慮児への支援として、日常の中で寄り添う時間を増やす取り組みを進めている。課題が表面化した際に対応するのではなく、日々の遊びや会話を通して信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる環境を整えることを重視している。職員は、子どもの良い行動を見逃さず「友達に優しくできたね」といった具体的な言葉で承認し、自己肯定感の育成につなげている。こうした丁寧な関わりを継続するためには、十分な人的体制の確保が欠かせないと認識しており、職員間の協働と支援力の向上を通じて、より充実したサポート体制の実現を目指している。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>おたよりで活動を発信し、地域や関係機関と連携して安心できる情報提供を行っている</p> <p>毎月の学童だよりやBOPだよりでは、子どもの活動の様子や行事での活躍をリアルタイムで紹介し、漢字には可能な限りルビを付けるなど、読みやすさにも配慮している。また、区や児童館への情報提供を通じて、施設選択の参考となるよう工夫している。さらに、青少年委員やPTAと内容を共有し、地域の会議や説明の場で学童クラブの活動や特色を紹介する機会も設けている。子どもや保護者が学童クラブの具体的な活動や環境を理解でき、安心して利用できる情報体制が整っている。</p> <p>柔軟な見学対応と丁寧な説明により、保護者が安心して選べる環境を整えている</p> <p>見学希望者には柔軟に対応し、時間や曜日を問わず受け入れを行っている。見学時には、保育園との違いを具体的に説明し、異学年で構成される集団や子どもの人数の多さ、送迎の有無など、学童クラブ特有の環境面の特色を丁寧に伝えている。また、保護者が抱く不安や疑問に丁寧に耳を傾け、一人ひとりに寄り添いながら説明している。見学後には「実際に見られて安心した」「雰囲気がよく分かった」といった声も多く寄せられており、保護者が学童クラブを選択するうえでの判断材料を提供し、実際の雰囲気や活動の様子を体験的に理解できるよう努めている。</p> <p>手続きや利用情報を多方面に発信し、保護者が安心して選択できる環境を整えている</p> <p>利用申請や手続きに関する情報は、施設内外で広く提供されている。申請書は学童クラブだけでなく児童館でも配布され、就学時健診の際には学校を通じて、BOPと学童クラブの違いを記載したチラシも配布されている。さらに、園長会での情報共有や施設掲示に加え、学校説明会に職員が参加することで、保護者が必要な情報に円滑にアクセスできる体制を整えている。このような外部機関との連携や情報共有の仕組みにより、保護者が学童クラブの特徴や利用条件を正確に把握し、利用や選択ができるよう支援している。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者説明会や個別対応を通じ、疑問や不安に寄り添い理解を深めている</p> <p>サービス開始時には、保護者に対して十分な説明を行い、理解と同意を得ることを重視している。新1年生の保護者説明会は土曜日に実施し、参加できない保護者には個別対応を行うことで、全員に説明が行き届くよう工夫している。また、途中入会の保護者には個別に説明している。説明内容には、利用人数や環境の違い、保育園との相違点、送迎の有無、将来を見据えた自立支援の方針などを含め、保護者の疑問や不安に寄り添いながら質疑応答を行っている。また、説明会で得られた情報や要望は職員間で共有し、個別対応や日常支援に反映させている。</p> <p>環境変化に応じた段階的支援と情報共有により、子どもの安心を確保している</p> <p>子どもが新しい環境に円滑に適應できるよう、段階的な生活導入や体力・動きの差に応じた配慮を行っている。1年生は少人数での活動から始め、徐々に異学年児童との交流を増やすことで、環境変化による影響を緩和している。また、1学期中に個人面談を実施し、保護者の不安に寄り添う機会としている。登所時の声かけや当日の予定の明示、職員間での情報共有により、子どもが安心して日常活動に参加できる環境を整備している。さらに、特別な配慮を要する児童については、児童票を活用し、個別対応や記録管理を行っている。</p> <p>時間管理や自己表現支援を通じ、子どもの自立と安心を促す取り組みを実施している</p> <p>卒所を見据え、子どもの自立支援に計画的に取り組んでいる。「学童のしおり」や日々の活動を通じて、時間管理やカギの管理、自己表現など、自立に必要な力を身につけるための声かけや支援を丁寧に行っている。保護者との日常的なやり取りや個別面談を通じて不安や疑問を軽減し、子どもが安心して活動や成長に取り組める環境を整えている。また、障害ある子どもに対しては個別対応を実施し、必要な配慮や支援内容を職員で共有することで、個々の状況に応じた適切な支援を行っている。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
<p>評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
<p>評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
<p>評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p>面談や記録を活用し、個々の成長を支える計画的な支援体制を目指している</p> <p>児童票が提出されている子どもについては、個々の状況に応じた計画を作成し、PCファイルに保管している。また、保護者との個人面談を通じて目標や状況を説明し、意向を共有することで理解を深めている。運営方針はお便りに明示され、特別活動・日常活動・行事ごとに年間計画を策定し、日常生活に落とし込んでいる。さらに、運動遊びや室内遊びの充実のため遊具や書籍の入れ替えを行い、夏休みなどの長時間活動では時間をかけて楽しめる遊びを提供している。子ども一人ひとりの育成状況を把握し、日常活動に反映させる体制づくりに努めている。</p> <p>子どもの状況や対応内容について、個別記録として適切に残している</p> <p>職員が分担して、日々の遊びや生活の様子を個別フォルダーに記録している。面談記録や個別記録にも援助内容や子どもの変化を記載している。また、日々のミーティング記録については担当外職員も加筆できる仕組みとなっており、子どもの状況が共有されている。障害のある子どもについては、現状の確認や支援の方向性をミーティングで共有し、具体的対応方法を段階的に変更しながら継続的に対応している。職員は異年齢集団の特性を生かしつつ、子どもの成長を支える柔軟な支援を行っており、これらの支援内容についても個別フォルダーに記入されている。</p> <p>ミーティングや記録の活用により、子どもの情報を職員全体で共有している</p> <p>職員は、支援計画や個別記録を取り出して閲覧できるほか、日々のミーティングやロングミーティングを通じて、子どもの状況や支援内容に関する情報交換を行っている。この取り組みにより、一人ひとりの様子を職員全体で広く把握できるようになっている。職員は経験や立場の異なる多様な視点から子どもを見つめ、アプローチの違いがあっても一定の方向性を確認している。また、自発的に発言しない職員にも声かけを行い意見を促すほか、プレイングパートナーへの情報伝達や共有用ノートの活用など、全職員で子どもへの理解を深める体制が確立されている。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>保護者の同意を得て外部連絡や情報共有を行い、子どものプライバシーを保護している</p> <p>外部とのやり取りに際しては、必ず保護者の同意を得ることを徹底している。子どもの様子の映像は保護者会時のみ、参加したメンバーで上映し、プライバシーを保護している。学校との情報交換についても、入会説明会で必要性や範囲を説明し、トラブル発生時には「学校にもお伝えする」と保護者に周知している。こうした取り組みにより、子どもの権利を守りつつ、保護者や学校との信頼関係を維持し、情報提供と安全管理の両立が図られている。職員は情報の取り扱いに慎重さを持ち、子どもと保護者双方の権利尊重に努めている。</p> <p>プライバシーに配慮した個別支援を行い、子どもの権利尊重と安心の確保に努めている</p> <p>課題のある子どもへの対応では、職員室での個別面談や1対1対応を行い、暴力やトラブルの未然防止に努めている。着替えや体調不良時の対応も多目的トイレやカーテンで仕切るなどプライバシーに配慮しており、原則として同性職員が確認を行う体制を整えている。個人記録の活用により、子ども一人ひとりの権利や意思を尊重する意識が高まり、保護者の価値観も職員間で共有されている。これにより、子どもが安心して過ごせる環境が形成され、職員の子どもの理解や個別支援の質も向上している。</p> <p>職員間の情報共有と配慮により子どもの権利を守り、意思を尊重しながら関わっている</p> <p>職員間で、子どもの人権と職員自身の権利意識を共有し、配慮しながら支援を行っている。上級生への配慮や、子どもに無理をさせない対応も行われ、年齢や状況に応じたきめ細やかな配慮がなされている。子ども一人ひとりを尊重した関わりが日常的に実践され、安心して過ごせる環境の形成に寄与している。児童指導は適宜アドバイスを行い、子どもと指導員等の職員間の中立的な関係を支える役割を果たしている。さらに、ミーティングを通じて得られた情報や保護者の価値観は職員間で共通理解され、支援の質向上に継続的に活かされている。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
<p>年度ごとに「しおり」を見直し、運営内容の統一と職員間の共通理解を図っている</p> <p>業務の一定水準を確保するため、「学童クラブのしおり」を手引書として整備している。しおりには、開所時間、生活の流れ、おやつ、持ち物、利用料、保険、緊急時の対応、自立支援などが明確に記載され、新入児童保護者会で配布し、職員間でも共有している。毎年度の作成時には内容の点検・見直しを行い、運営実態に即した更新を重ねている。しおりは、日常的な業務マニュアルとしてだけでなく、必要に応じて参照し運営の方向性を確認する手立てとなっており、サービスの質の維持と職員間の共通理解が図られている。</p> <p>保護者や職員の意見を反映し、体制や運営手順などの業務改善に努めている</p> <p>保護者からの意見を基に、職員の配置人数や役割分担を検討し、全体を把握する職員と個別対応を担う職員の体制を整えている。また、昼食後から映画上映会にかけての運営手順についても、職員の提案をもとに順序の見直しを行い、子どもたちが安全かつ楽しめる運営環境を整備している。さらに、日々の会話から子どもの意見を収集し、意見箱の設置も検討するなど、利用者視点での運営改善に努めている。現場の声を反映した柔軟かつ実践的な業務改善が推進され、サービスの質の向上につながっている。</p> <p>他施設の手引書も参考にし、職員・保護者・子どもの意見を反映し運営改善に努めている</p> <p>他施設の手引書なども参考にしながら、より実践的で効果的な手引書の作成に取り組む予定である。学童だよりの内容も毎年見直し、情報提供やお知らせがより伝わりやすくなるよう工夫を重ねている。さらに、職員や保護者、子どもの意見を日々の運営に取り入れ、標準化と個別支援の両立を図るよう努めている。今後も継続的な改善を重ね、子どもたちにとって安心かつ有意義な学童クラブ運営を目指していくことが望まれる。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	28 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>個人の記録簿を作成し、子ども一人ひとりの状況を職員が把握し共有している</p> <p>職員は、日々のミーティングで子どもの様子や前日に起きた出来事を全員で共有し、子どもの状況を把握できる体制を整えている。個人ごとに3年間の記録を継続して作成しており、支援学級在籍児については「児童票」を基に、申請書に記載されたアレルギーや配慮事項を把握し、常勤職員や会計年度職員、臨時職員も情報共有の徹底を図っている。月に1回の「ロングミーティング」では、より詳細な検討や振り返りを行っている。1年生には個別的なケアを行い、成長に応じて集団での見守りに移行するなど、発達段階に応じた柔軟な援助を実践している。</p> <p>職員が意図的に異学年交流できるよう促し、気持ちの良い関係が築けるよう支援している</p> <p>異学年の子どもたちが自然に関わり合い、協力しながら遊ぶことを大切にしている。自由遊びを基本としつつ、職員が意図的に異学年混合で行うドッジボールや王様陣取り、スーパー鬼ごっこといった集団遊びを取り入れている。これらは特別な計画に基づくものではなく、子どもたちの「やりたい」という声や、その日のリーダーの判断で実施されている。年上の子が年下の子に対して強い言葉を使うなどの場面では適切に介入し、互いに気持ちのよい関係づくりができるよう声かけを行っており、安心して交流できる環境が整えられている。</p> <p>子ども同士のトラブルには双方の話を聞き取り、解決に向けた取り組みが行われている</p> <p>子ども同士のけんかは日常的に起こるが、職員は双方の意見を丁寧に聞き、どうすればよりよく解決ができるかなど考えさせている。また相手の気持ちを代弁することもある。けんかが短時間で収まる場合や、長引くトラブル等があるが、職員間で共有し慎重に対応している。クールダウンは必要に応じて事務室を活用している。また、発達に偏りのある子どもには個別の支援を行い徐々に集団見守りへ移行している。障害を持った子どもには簡単なルールで遊びに参加できるよう支援し、他の子どもとの関わりを促している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>おもちゃやボードゲーム、図書は年齢に合わせて選び、楽しめるよう配慮されている</p> <p>子どもたちは帰ってくると、職員からの指示が無くとも自ら好きな遊びを選択している。おもちゃは年齢に合ったものが置かれ、図書は漫画も含め取り出しやすく整理されて配置されている。遊びのマンネリ化を防ぐため、学期ごとにボードゲームを一部入れ替える工夫を行い、ブロックなどの遊びはBOP室、ボードゲームやカードゲームは会議室といったように、遊びの内容で場所を使い分けている。新1年生には利用できる部屋や遊び方を紹介し、安心して過ごせるよう配慮している。集団遊びや日常の活動も参加は自由で、子ども自身の意欲を尊重している。</p> <p>夏休みに三年生の提案で集団遊びが企画され、司会進行などを子どもたちが行っている</p> <p>入口付近のホワイトボードに今日の予定が明記されており、子どもたちはそれを見て遊びの予定を立てている。体育館で子どもたちの意思で始まった集団遊びでは、各部屋の職員に連絡して子どもたちに呼びかけ参加を促すこともある。夏休みの「子ども企画」では、子ども自身が遊びを一から企画や運営をする機会があり、ドッジボール大会などが行われた。参加者の募集のポスター作成やクジ引き、ルール説明、審判まで、主に三年生が中心となって担い職員はサポートに徹した。上級生はリーダーシップや責任感を育み、下級生は憧れや学びの機会となった。</p> <p>毎日の生活の中で基本的な生活習慣が身につくよう、職員は声をかけながら支援している</p>			

新BOPでは、挨拶や片付けなど基本的な生活習慣の習得を意識的に支援している。挨拶については、職員が「お帰り」と声をかけることで、子どもたちも自然に「ただいま」と返す習慣を身につけている。また、手洗いの促しも日常的に行われている。遊びの途中でおもちゃが放置されることもあるが、職員がその都度注意し、片付けの意識を促している。4時50分には全員でおもちゃを片付けるルールを設け、遊びの後には整頓された環境を確保している。このように日常の遊びの中で生活習慣の定着を図り、子どもたちが自主的に行動できるよう援助している。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>一年を通じて運動系の遊びや工作など、子どもたちの興味を引く行事を計画している</p> <p>日常に変化と楽しみを提供するため、一年を通して行事が計画されている。特別活動として、月イベントが計画され、メンコ大会や水遊び、スポーツ遊び、手作り工作、伝承遊びなど子どもが興味を持つ企画を職員が考えて実施している。その他、児童館まつりへの参加や一年の締めくくりとして行っている「お楽しみ会」など、規模の大きな行事も行われている。児童館まつりは子どもたちと、「どんなお店を出すか」という所から決め、店長も子どもの中から選出した。店の担当を選び、看板作成やルール書き、当日の運営まで主体的に行っている。</p> <p>行事の手順やルールを決めるときは、子どもたちに内容を記載するよう支援している</p> <p>行事の実施にあたり、子ども同士が意見を出し合い、企画や活動を自主的に進める機会を設けている。夏の縁日や秋の児童館祭り、冬のお楽しみ会では、係を自主的に決め、担当コーナーの運営やゲームのルール決めを行っている。検討の過程では、子どもたちにルールなどをポスターに書くよう促し、担当職員がそばで助言をしている。活動後にはミーティングノートに子どもの意見を記録し、職員間で共有されている。子どもたちの主体性や協働性を育むとともに、遊びを通じて責任感や達成感を体験させるため、職員は毎年継続的に実施してきたと考えている。</p> <p>保護者との良い関係を築くため、子どもの様子などを伝えて協力を依頼している</p> <p>行事では、子どもたちが日常とは異なる体験に挑戦し、新たな発見や達成感を得られるよう工夫している。工作活動では、普段は使用できない材料や道具を使うことで特別感を演出し、創造意欲を高めている。児童館まつりなどの行事では、保護者にも手紙で協力を依頼し、家庭と連携して子どもの主体的な参加を支えている。作品を持ち帰った際には、保護者から直接の声やアプリを通じた感想が寄せられ、家庭とクラブの双方で子どもの成長を喜び合う関係が築かれている。年2回の保護者会では、行事の報告や子どもの様子を伝え、より良い関係が築かれている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが学童に通い続けられるよう、楽しみを増やすよう工夫されている</p> <p>子どもが自ら学童に通いたいと思えるよう、遊びや人との関わりを通じた楽しい体験づくりに力を入れている。入会当初は戸惑いや抵抗を示す子もいるが、メンコや行事、おやつなどをきっかけに通所が楽しみになる子どもも多い。職員は「学童に来なければならない」とは伝えず、一人でいる子どもや遊びに入りづらい子どもには積極的に声をかけ、仲間とのつながりを支えている。6月の個人面談では保護者から「行き渋り」の相談が寄せられることもあり、クラブでは臨時職員が遊びに誘うなど、継続的に見守りながら安心して過ごせるよう支援している。</p> <p>一日の流れを子どもたちがホワイトボードで確認できるよう、分かりやすく表示している</p> <p>子どもが一日の流れを理解し、主体的に行動できるよう、ホワイトボードに予定を掲示し、視覚的に分かりやすく示している。毎日の活動の流れが一定であるため、子どもたちは時間を意識して行動し、時計を見ながら見通しを持って過ごしている。活動場所の変更についても、校庭や体育館の利用状況を天候や気温に応じて柔軟に調整し、使えない場合はホワイトボード上に示し、子どもに知らせている。2部屋あるBOP室の片方はおやつ部屋として使い、おやつ以外では長期休みや行事準備時に活用するなど、限られた空間を工夫して運営している。</p> <p>小学校の協力により子どもの遊び場を分散し、色々な場所で遊べるよう工夫している</p> <p>子どもが安全で安心して過ごせる環境づくりに力を入れている。室内では走らないことや廊下で遊ばないことなど、日常的に安全指導を行っている。体育館では子ども同士ぶつかることもあるため、可能な限り校庭を活用している。学校の会議室や多目的室、ピロティなども利用し、子どもが分散するよう工夫している。室内遊びの場面では、ブロック、人形遊びなどの人気が高く、子どもたちはBOP利用の子どもとも遊びを楽しんでいる。おもちゃの購入時には子どもの希望を取り入れ、新しいおもちゃを導入した。今後は意見箱の設置が検討されている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校とは相互に情報交換を行い、施設利用への理解と協力が得られている</p> <p>学校との連携を密にし、子どもの様子や支援の方向性を共有しながら運営を行っている。日常的には、学童でのトラブルや気になる行動を担当に伝えたり、逆に学校側から学童での見守りを依頼されたりと、相互に情報交換が行われている。校長・副校長、地域関係者らが参加する連絡協議会を年2回開催し、活動報告や課題の共有を行っている。新入生の学童利用状況は、1月の段階で学校が把握しており、クラス名簿の提供を受けている。また、施設利用に際しても校長・副校長の理解と協力を得ており、学校との良好な関係のもとに活動を展開している。</p> <p>不登校の子どもが無理なく安心して過ごせる場所となるよう、学校と連携している</p> <p>不登校など課題を抱える子どもに対しては、学校と密に連携しながら、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。過去には、学校には通えないが学童には通っていた子どもに対し、校長の依頼を受けて対応した事例がある。絵が得意な職員が担当し、他の子どもが来る前の静かな時間に漫画を描くなど、安心して過ごせる環境を整えた。少しずつ滞在時間を延ばしながら、担任とも情報を共有し、学校復帰につなげていった。このように、子どもの意欲や興味を尊重し、無理のないペースで社会的な関わりを取り戻せるよう支援する姿勢が一貫している。</p> <p>特別支援学級の担任と登所時に子どもの様子を確認し、子どもの支援に役立てている</p> <p>特に配慮が必要な子どもに対して、必要に応じて学校と連携を図っている。特別支援学級の担任との定期的な情報交換は行っていないが、登所時に担任から当日の様子を聞くなど、日常的なやり取りが行われている。以前、支援方法に迷った際には、副校長を通じてクラスでの対応方法の助言を得るなど、個別の状況に応じた連携を図っている。今後は、担任や学校とより継続的な情報共有の場を設ける必要性を感じている。また、区巡回支援専門員による訪問では、職員間で選定した支援を要する子どもについて助言を受け、支援方法の見直しに活かしている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつは子どもたちの遊びのペースに合わせ、気の合う友達と食べられるようにしている</p> <p>おやつ時間は、第二BOP室を専用の部屋として設定し、1テーブルに3~4人ずつ座ることで、落ち着いて過ごせる環境が整えられている。以前は帰宅時間や学年ごとに呼び出していたが、数年前の意見箱に寄せられた「仲の良い友達と一緒に食べたい」という意見を受け、職員間で話し合った結果、現在は午後2時45分から3時30分までの間で自由な時間に食べられる方式に改められた。仲良しの子どもと食べるため会話が弾み、おやつを食べ終わるのに時間がかかることもあるが、子どもの遊びのペースを大事にしながらかおやつを提供している。</p> <p>おやつを食べるか食べないかの判断は、保護者の了解のもとで子ども自身が決めている</p> <p>おやつ時間は、子どもの自主性を尊重し、無理に食べさせることはしていない。保護者から「食べさせてほしい」との要望がある場合も、子どもの意思を丁寧に伝えることで理解を得ている。お茶だけを飲んで遊びに戻る子どももおり、一人ひとりのペースを大切にしている。以前は全学年で食べ忘れ防止のチェック表を用いていたが、職員の負担が大きく、また「食べたくないのに呼ばれるのが嫌」との子どもからの声も多かったことから、確認は1年生のみ夏休み前までの運用に改めた。この変更は学童だよりなどを通じて保護者に周知され、理解を得ている。</p> <p>食物アレルギーの子どもたちが、安全におやつを食べられるよう細心の注意を払っている</p> <p>アレルギー対応については、安全管理を最優先に、綿密な確認体制が取られている。乳製品アレルギーの子どもは、専用テーブルでの飲食を徹底している。提供前には必ず2名の指導員がペアでメニューと原材料を照合し、1週間前および当日に再確認を行っている。保護者にも前月に原材料一覧を提示し、内容を確認してもらっている。卵やナッツアレルギーの子どもには、それらを完全に除いた特別食を個別に用意している。エビペンを所持する子どももおり、年1回、看護師による職員研修を実施し、緊急時に適切な対応ができるよう体制を整えている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもの健康状態を観察し、早めに保護者に連絡を取っている</p> <p>子どもが具合が悪いときは、自ら職員に伝えるよう指導している。登室時や活動中にいつもと違う様子の子どもには職員が声をかけ、症状を聞き取り、体温を測定している。必要に応じて氷のうで冷却し、子どもが少しでも楽になるようにしている。保護者への連絡は体温が37.5度以上と「入会のしおり」で説明しているが、37度を超えた時点や、ぐったりしている時は保護者へ早めに連絡し、迎えを依頼している。子どもの休む場所は第2BOP室のカーテンで仕切られた場所にマットを敷き寝かせている。ケガはノートに記録し、全職員で共有している。</p> <p>職員は遊び場の危険な箇所を点検し、子どもたちが安全に遊べるよう配慮している</p> <p>頭部の怪我は速やかに保護者へ電話連絡を行い、軽い打撲や絆創膏程度の軽傷では、子どもを通じて保護者に伝えさせている。校庭遊びの際には、危険箇所にコーンを設置し、安全な遊び環境を確保しているほか、固定遊具の使用制限がある場合はホワイトボードで周知している。校庭に出るときに子どもたちが走って外に出ないように、子どもを一度集め、落ち着かせてから活動に移ることを職員の中で検討している。ボールの取り合いでけがに通じることもあるため、学年別や遊び方で違う種類のボールを決め対応している。</p> <p>子どもたちが安心して安全に帰宅できるよう、職員が声かけや見守りを行っている</p> <p>一人帰りの子どもの安全確保のため、職員による見守りと声かけが行われている。正門では横断歩道への飛び出しを防ぐため、子どもより先に職員が立ち、東門でも暗くなる時間帯には必ず大人が付き添っている。子どもたちには「走らない」「決められたコースから帰る」など、声をかけている。不審者情報が出たり、雷発生時には一人帰りを中止し、全員お迎え対応とするなど柔軟に判断している。帰り道で心配のことが起きたらクラブに戻ってくるように伝えており、子どもが安心して、安全に帰宅できるようにしている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
○あり ●なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者や子どもの状況に応じた体制を整え、安心して子どもを預けられるようにしている</p> <p>保護者の就労状況や家庭環境に応じて、事前申請の上、時間外利用を認めている。特に、児童票を提出している保護者については、事前に丁寧な聞き取りを行い、その内容を子どもへの対応に活かしている。さらに、児童受け入れシステムを用いて出欠席を確認し、気になる子どもの様子については職員が日常的に声をかけて相談することで、早めの課題把握や対応につなげている。子どもと保護者双方にとって安心できる支援環境が構築されている。</p> <p>日常的な情報共有と丁寧な対応により、保護者との信頼関係につなげている</p> <p>職員はお迎え時や電話連絡を通じて、子どもの様子を保護者に丁寧に伝えている。首から上の怪我等の際は必ずその日のうちに電話連絡を行い、迅速な対応と協力を依頼している。日々の具体的なエピソードを交えた説明により、保護者の納得感が深まり、質問や相談も出やすい環境が形成され、保護者との信頼関係が強化されている。また、クラブに馴染めない子どもへの対応では、保護者の安心を優先し、「任せてください」「大丈夫です」と繰り返し説明することで、子どもの気持ちとすり合わせながら支援している。</p> <p>保護者と密に連携し、丁寧な情報共有を通じて、保護者の安心感を高めている</p> <p>土曜日利用や時間変更の際には、保護者から事前に電話連絡をお願いしている。保護者からは「ありがとう」「お世話になっている」といった感謝の声が多く、職員の丁寧で細やかな対応が信頼の醸成につながっている。日々の情報共有やフィードバックを通じて、保護者は子どもの様子や変化を把握でき、安心して学童生活を任せることができている。また、職員間で共有された保護者の意向や子どもの状況は、個別支援や安全確保に活用されており、組織的な支援体制が保護者の安心感と納得感を支えている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもが主体的に運営に関わり、協働性や責任感を育み地域と交流している</p> <p>学期に一回、児童館職員主催のイベントを実施し、普段体験できない多様な遊びや活動の機会を提供している。子どもたちはイベントに参加することで、遊びの輪が広がり、新しい友達や活動の楽しさを体験できている。さらに、児童館祭りでは、ゲームコーナーの出店やお店当番を担当し、地域の人々と直接交流する機会を作っている。準備やルール決め、ポスター作りなども子ども自身が主体的に取り組むことで、協働性や計画性、責任感の育成にもつながっている。こうした体験は、地域との関わりを通じた貴重な学びの場となっている。</p> <p>児童館との連携により遊びや運営を計画的に実施し、子どもと保護者の理解を促している</p> <p>児童館から遊具の貸借や企画の協力を得るとともに、事前打ち合わせを行い、活動の準備や運営を計画的に進めている。子どもたちはお祭りの会議に参加し、自ら考え意見を出す経験を積むことで、主体性や協働性を育むとともに、計画や判断力も養われている。職員は、児童館の取り組みやアプローチの違いを学び、クラブ内での活動改善や新しい試みの参考として活用している。また、活動に対する保護者の理解も得られている。児童館との連携による取り組みが継続しており、充実が図られている。</p> <p>地域と連携し、子どもが自ら活動を選び、生活の幅を広げる支援の進展に期待したい</p> <p>児童館以外の地域資源の活用も視野に入れ、子どもが自らの意思で活動を選択できる環境づくりを重視している。地域での関わりを通して、子どもが健全に成長し、自分の意志で時間の使い方や活動内容を定める力を育むことを目的としている。職員は地域の情報にアンテナを広げ、新たな活動機会の提供や地域資源との接続を丁寧に検討している。今後も地域との連携を深め、子ども主体の活動を促すことで、生活の幅を広げる支援を継続していくことが期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	保護者とともに子どもの成長を支える育成環境を作っている	
内容①	子どもの成長を支える場としての役割を重視し、職員が一丸となって丁寧な関わりを行っている。年度初めには区の方針をもとに、安心・安全な生活と人との関わりを通じた成長の大切さを伝え、友達を思いやる姿勢や施設内のルールを守ることを継続的に呼びかけている。また、日常の中で明るい挨拶や整理整頓を促し、子どもが自ら考え行動できる力を育てている。さらに、保護者へはお便りなどを通じて子どもの成長を具体的に伝え、家庭との信頼関係を深めている。子どもの小さな変化を見逃さず、成長を共に喜ぶ姿勢が、全体の温かい支援体制を支えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	子どもの状況に応じた自立支援を職員で共有し、日々の取り組みで支えている	
内容②	三年生での終了を常に意識し、子どもと保護者が自立に向けて安心して取り組める支援が行われている。「しおり」には学年ごとの具体的な目標が示され、帰る時間の把握や一人帰り、困ったときには職員に相談できるなど、子どもと一緒に進められる項目が整理されている。日々の生活では、一日の流れを示すボードや遊びの選択肢を通じ、子どもが自分で考え行動できる環境が整えられている。職員間でのミーティングを通じた情報共有も行われ、環境変化への対応や卒所を見越した継続的な取り組みによる保護者の不安軽減に力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもがおやつを楽しめるよう援助している
タイトル③	職員全員の共通理解の上、アレルギー対策を間違いのないように徹底している	
内容③	食物アレルギー児用のおやつは、前月に成分表を保護者へ送付し確認を得るなど、家庭と連携した対応が行われている。週末に次週のおやつを読み合わせを行い、提供時にも再度確認を行っている。おやつは他の子どもと区別できるよう色分けしたトレイを使用し、氏名とアレルギー物質を明記して、どの職員でも対応しやすい仕組みになっている。子ども自身も自分のトレイを確認できるようになっている。乳アレルギーのある子どもは決められたテーブルで職員が見守る中、安全に配慮しておやつを食べている。提供の時間を分け、誤食防止に万全を期している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	現場の声をもとにした課題解決の仕組みと、年間を通じた改善サイクルが効果的に機能している
	内容	課題に対して、職員ミーティングを通じて現場の意見を丁寧に吸い上げ、組織的に検討・改善を図る体制が確立している。職員の意見交換を重ねながら協議を行い、現場で実践可能な改善策を継続的に実施している。特に、12月から1月にかけて実施されるロングミーティングでは、年度途中の成果を職員全体で共有し、取り組みの方向性を確認するなど、計画的な運営が行われている。また、年度末には反省会を開催し、アンケート結果も踏まえた多角的な分析を行い、その結果を次年度の運営方針に反映させ、事業運営の質向上に寄与している。
2	タイトル	事前情報の共有や初期の配慮、個人面談等を行い、子どもと保護者が安心して学童に慣れられるよう工夫がなされている
	内容	入所前に保育園等と連携し子どもの情報を把握し、入会説明会では「しおり」を用いて丁寧に説明している。説明会は土曜開催に加え個別対応も行き、すべての家庭が参加しやすいよう配慮されている。四月当初は一年生のみで遊ぶ時間を設け、体力差を考慮しながら学童生活に慣れられるよう工夫されている。また一学期中に一年生全員と個人面談を実施し、子どもの様子や保護者の不安、思いを共有し支援を深めている。さらに、三年間の学童生活を見通した自立へのステップを紹介し、家庭と共に子どもの成長を考える機会としている。
3	タイトル	行事や集団遊びの中で子どもたちの意見を聞き、自主性を引き出すとともに異年齢交流が行われている
	内容	異年齢の子ども同士が自然に関わり合えるよう、日常の遊びや月のイベントを通じて学年を超えた交流が意図的に行われている。集団遊びを行い参加したい子が異年齢で遊んでいる。夏の縁日ごっこや秋の児童館祭りは子ども達から参加を募り、やりたい子がイベントに携わっている。子どもたちが主体的に担当のコーナーを運営していけるようにしている。ルールや看板書き等、子ども達の話し合いで決めている。お楽しみ会は全員参加だが司会者は三年生が担っている。三年生の行動は低学年にとって憧れとなり、三年生自身の成長も確認できている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	家庭事情や地域性に合わせながら、保護者の集まりを形成するなど、地域とのかかわりをさらに深める取り組みに期待したい
	内容	これまで保護者会などを形成する独自の組織体がなく、それにより地域とのつながりが十分に形成することが難しかった。こうした課題を踏まえ、職員間で保護者との連携の在り方を検討し、保護者が意見を共有できる仕組みづくりの必要性を感じている。例えば、連絡協議会の開催を通じて意見交換の機会を重ねているが、保護者代表の参加がないことなど、今後の体制づくりに向けた具体的な方向性の確立が課題となっている。区とも連携しながら、地域と家庭、学童クラブが一体となった支援体制の構築に向けて、改善の歩みを進めることに期待したい。
2	タイトル	個別支援をさらに充実させるためにも、記録の在り方や共通ルールづくりが進むことを期待したい
	内容	子ども一人ひとりに関する記録を職員が担当制で分担作成し、九月・十一月・年度末を目安に定期的に記入している。記録はミーティング等で共有され、子どもの様子や成長を確認する機会となり、日々の支援に生かされている。また、面談の記録や保護者とのやり取りも同一ファイルにまとめ、情報を整理・一元化している。今後は、記録の視点や記入方法などの共通ルールを整えることで、個別記録がよりの確に子どもの理解と支援に生かされることが期待される。特に、障害や配慮を要する児童についても、統一的な記録方法の整備が求められる。
3	タイトル	ミーティングの時間は限られているため、あらかじめ職員から意見を出しておくなど効率化に向けた取り組みに期待したい
	内容	クラブでは職員の意見を重視し、月に一度のロングミーティングは議事録に沿って会議が進められ、子どもの安全管理やおやつについて等、子どもの生活に密接に関わる事項について活発な議論が交わされている。しかしミーティング時間の制約により結論に至らないまま終了することもある。常勤職員がリーダーシップを発揮し、意見を集約して結論を導き出すこともあるが、今後は、懸案事項について事前に意見を提出してもらい議事録に記載したり、議題を絞り込むなど、ミーティングの効率化を図りながら、職員全体の共通理解を高める取り組みが期待される。